



# 西覚寺だより

第十八号 年四回発刊

## 秋季彼岸会法要のご案内

● 日 ち 九月 二十三日 (金・祝)

● 午前の座 午前十時半 ～ 正午

内容 正信念仏偈(草譜) 六首引き

● 法話

● 御文章(聖人一流章)

● 午後の座

午後一時半 ～ 午後三時頃

内容 正信念仏偈(草譜) 六首引き

● 法話

● 御文章(聖人一流章)

● 布教使 三井 求(住職)

● 持ち物

必ずマスク着用の上、御参拝下さい。  
マスクは「不織布マスク」推奨

お念珠、門徒式章(お持ちの方)、  
御仏前(受付にお渡し下さい)

※ 感染症対策のため「お斎」はありません。

※ 午後の方が、比較のお席に余裕があります。

※ 他、換気・手指消毒・検温など感染症対策を  
講じた上で開催します。みなさまもご協力、  
よろしくお願い致します。

## 【コラム】 「お供えもの」 について

ご法事のお仕度の際に、よく聞かれること。  
いくつかありますが、今日はその中で、  
「お供えもの」についてお伝えしたいことが  
あるので、取り上げたいと思います。



満中陰や一周忌など、ご法事が勤まる際に、お供え物を支度される  
と思います。自分が喪家(施主)であれば当然のことでしょうし、御親  
戚にご法事に伺う際も、きつとご持参されることと思います。よく質  
問されることは、「何を留意したらいいか」ということです。

でも、私がこのコラムで書きたいことはそういうことではなく、  
「お供え物は、誰に供えるものなのか」「誰に対するお供えなのか」  
です。もちろん、お供え物ですから、喪家(施主)への手土産ではあり  
ません。

私達の心情として、亡き方(そのご法事の対象となられている方)へ  
お供えするもの、という気持ち強いのではないのでしょうか。それも  
大事な気持ちだと私は思いますので、否定はしません。

ただ、もうおひとりの、大切な方をみなさま忘れていないように思うの  
です。それは、『御本尊さま(阿彌陀さま)』です。

つまり、ご自宅でご法事が勤まるなら、「ご自宅のお仏壇の阿彌陀様  
へのお供えですし、御親戚のご自宅のご法事にお参りをされるなら、  
その御親戚宅のお仏壇の御本尊様へのお供えです。

そして、西覚寺などお寺の本堂を借りてご法事をお勤めする場合は、  
そのお寺の御本尊さまへのお供えです。お供えとは、言い換えれば、私  
から尊い方への「お布施」なのです。

この大切なことを忘れて、喪家(施主)への手土産感覚でいると、  
「親戚同士で気を遣わせるのも悪いし、お供えとかもナシで」というよ  
うな発想になってしまえます。本来から考えれば、御本尊様への「お供  
え物」なのですから、気を遣わせて悪いとか、家族だけで勤めるからナ  
シでいいか、などという、内輪の事情がはさまってくるようなもので  
はありません。

ご自身が喪家(施主)である、または、御親戚のご法事にお参りされ  
る際、どうぞ大切な事です。今一度このコラムを思い出して頂ければ  
と思います。

その上で、「何を」支度すればいいのか。①お花、②餅・菓子・果物  
が基本です。また、「お香(お線香・抹香)」も、御本尊様へのありが  
たいお供えかと思えます。

西覚寺責任役員・門徒総代会

6月19日(日)

「西覚寺責任役員並びに門徒総代会」を招集しました。

- ・「2021年度活動報告並びに決算」
- ・「2022年度活動予定並びに予算」

以上を上程し、適正な運営をご確認、ご承認いただきました。

また、責任役員・門徒総代ともに、任期満了に伴う退任・再任新任の手續きを行いました。この紙面をお借りして、西覚寺の新しい役員体制をご報告いたします。

特に門徒総代さんは60〜70歳代の方が中心となり若返りました。役員一同、ご門徒の皆様の大切なお聴聞の場である「西覚寺」の護持発展のため、力を合わせて尽力して参ります。よろしく願います。

代表役員  
責任役員

門徒総代

- 三井求 (就職)
  - 丸山光夫 (再任)
  - 三井久子 (再任)
  - 伊藤和幸 (新任)
  - 築山芳夫 (再任)
  - 直江泰 (新任)
  - 丸毛清孝 (新任)
  - 渡邊和彦 (新任)
- (敬称略・五十音順)



孟蘭盆会・物故者追悼法要

7月15日(金)

西覚寺では、『孟蘭盆会』並びに『物故者追悼法要』が勤まりました。当日は、雨が降ったりと、お参りにはあいにくの天気となりましたが、午前と午後と、60名ほどの方がお参りにみえました。

この日は、法話のご講師として、刈谷市にて布教所(光照寺)をかまえ、活動されている竹本崇嗣師をお招きしました。落ち着いた語り口でもあり、流れるような語り口でもあり、とても聞きやすかったと感想をお伝えくださるご門徒さまもいらっしゃいました。

この日は、日本中を騒がせた大事件が起きた直後ということもあり、「カルト宗教とほんものの宗教」についてもお話くださいました。「不安」を煽り考える力を奪うのが「カルト」。「安心」を与え、この命のありようについて考えることができるのが「ほんものの宗教」である、と聞かせて頂いたように思います。

私にほんものの「安心」をお与えくださる阿弥陀さま。亡くされた大切な方の「安心」を聞かせて頂きながら、その亡き方を「ほとけさま」として仰ぎ頂いていく。そこに、亡き方の仏さまとしてのおはたらきがある。俱会一処の世界である阿弥陀さまのお浄土に、あなたも必ず必ず参らせてもらおうのだよとの、ご催促があるのだと、聞かせて頂きました。



住職の一言コーナー

8月初旬、安城では三年ぶりに「七夕まつり」が開催されました。エリアを限定し、「露店」もなく、残念に思われた方もいらっしゃるかもしれません。

ただ、安城駅前商店街の年配の方が言うには、「七夕は飾り(がメイン)だから」。

たしかに、七夕まつりのメインは飾りです。でも、最近の七夕まつりについて感想を聞くと、年配の方は特に「飾りが減って寂しい」と仰います。では、あの飾りは誰がつくっているのでしょうか。

それこそ、安城駅前商店街の方々が主だって、ボランティアで作られています。何十年も、毎年大変な努力だったと思います。商店街の青年部で話をしていると、七夕まつりは「安城のおまつり」なんだから、商店街に頼りっきりでなく、もっと安城市民全体を巻き込まなくては、これから先は立ち行かなくなる、と言います。

来年は、ご門徒の皆様、特に子どもたちに協力してもらって、西覚寺でも一本飾りを作ろうと思います。ぜひ一緒に作りましょう。



浄土真宗本願寺派  
西覚寺

安城市朝日町12・8

0566・76・3594

<http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/>